MEDLARS II: 1976 年度入力作業方針および 入力関連事項

MEDLARS II: 1976 Input Policies and Related Matters

後 藤 敬 治*

慶応義塾大学医学情報センター

I. はじめに

1975 年に始まった MEDLARS II も、今年に入って既に第 2 年目の活動を開始始めている。ここではその基本となる入力の面から、最近入手した資料^{1), 2)}に基づき、その内容を紹介させていただくことにしたい。

資料全体を通覧して受ける印象は、未だ MEDLARS に関しては日本で具体化されていない³⁾ コンピューター中に蓄積された情報を、利用者が直接、即時利用可能なオンライン検索方式 (MEDLINE)⁴⁾ に入力方針の重点が置かれていると思われる事項が、資料中のいたるところに認められることである。

また本年 (1976) から新しく MEDLARS II の情報源として加えられる予定の、会議事録 (proceedings) を中心としたモノグラフの入力についても、MEDLARS I になく MEDLARS II になって新しく情報源中に主題検索の際の対象として加えられている英文表題⁵⁾、英文抄録⁶⁾ の入力と共に、特筆に値することとしてあげておきたい。

その他、MeSH 中のディスクリプター決定の際の細菌の分類、命名典拠図書である *Bergey's manual of determinative bacteriology* が、従来典拠とされていた第 7 版から第 8 版に改版されたことから来るかなり大幅なディスクリプターの変更、それに化学物質に対する索引語付与の際の、化学を専攻分野としなかった一般の索引作成作業者と化学物質索引作成専門家間の役割分担

を、規則として明文化して来ていること⁷⁾、なども特記事項としてここにあげておきたい。

以下、MEDLARS とその利用者間の主題検索における媒体の主たるものである、標準化された医学用語集 MeSH (Medical Subject Headings)⁸⁾、このリスト中の用語に結合し、その意味内容を一層限定し明確にする機能を持つ qualifiers (限定子; subheadings; 副件名)、そしてこれらを用いて主題索引、検索用ディスクリプターを付与する際に作業者が守らねばならない諸規則の 1976 年度 MEDLARS II における大要を、順次紹介して行くことにしよう。

*1 1975 年 9 月 29 日から 10 月 6 日までの間に、米国内外の関係者に対して一日コースの 1976 年度入力作業に対するオリエンテーションが、米国国立医学図書館 (NLM) で同館書誌サービス部に属する索引部門主催の下に例年同様開かれている。この資料は、その際配布されたものである。

*2 日本の MEDLARS センターである日本科学技術情報センター (JICST) のオンラインシステムによる情報検索等の長期構想 (「情報管理」17(10): 735, 1975) によれば、1976 年から 77 年 (昭和 51~52) までに小規模オンラインシステムを具体化し、昭和 56 年以降に全国的ネットワークの形成をはかろうとする計画のようである。(昭 51.7.26 追加。参考文献 9) の下の部分を参照下さい。)

*3 既に周知のことであろうが、米国内はもちろんのこと、欧米数か国においても MEDLINE は実際に運営、利用が行なわれている。

*4 MEDLARS 産物の一つである目で見える索引誌であり、日常日本で我々が頻繁に利用している *Index Medicus* の主題索引を用いる場合は、後述するように MeSH 用語中の機械検索専用のディスクリプターを除いた、いわば簡略型 Me-

* Keiji GOTO: Keio University Medical Library and Information Center

SH の用語のみが検索時のシステムと利用者間の媒体となるが、MEDLARS II における MEDLINE においては、MeSH 用語に加えて英文表題、英文抄録が検索対象に新たに加えられたことにより、これらの中に用いられている用語による検索も MeSH ディスクリプターを用いた検索と共に可能である。現在英文表題中の用語を対象とした検索はすべての入力文献に可能であり、英文抄録については、MEDLARS 収録対象雑誌を 1, 2, 3 とランク付けて作業を行なっている中の 1, 2 に指定された雑誌収録論文中のものが検索可能な対象となり、その数は全入力文献の半数以上である。

*5 このことは、筆者が日本における MEDLARS のための索引作成作業に従事していた時から感じていたことであるが、化学専攻者でない我々図書館員、またはそれに類した人間にとって複雑な化学物質の索引作成(検索)を MeSH ディスクリプターを用いることのみによって充分に行なえなかった事実を、MEDLARS のシステム設計者も認め始めていることを意味しているように思われる。これに対する解決法として、MEDLARS II では、*4 で紹介した機械検索の際に行なう MeSH ディスクリプターによらない、英文表題、英文抄録中で用いられた著者自身の用語を利用して行なう検索方式を、MeSH ディスクリプターによる検索方式と併用することが案出されている。この方式による検索ならば、我々化学専攻者でない人間でも、検索対象語に関する同義語、上位概念語等を知らないことからくる多少の検索結果の不良を覚悟の上ならば、検索、索引作成は可能となるであろう。

*6 *Index Medicus* 用の MeSH と機械検索、索引作成用 MeSH との相違については、「医学図書館」21(1): 37~52, 1974. の拙稿を参照いただきたいが、その主たる相違は、前者は後者に比し機械検索専用の入力要素の記入が無い、いわば MeSH 本版に対する一種の簡略版であると言ってよいように思われる。もちろん、目で見える索引と機械検索とは本質的に機能の違いがあると思われるので、簡略版がただちに本版に対してすべての面で劣るものだ、と断ずることはできないであろうが。

II. 1976 年版 MeSH

まずこの項の記述を始めるに先立って、*6 でも部分的にのべたことであるが、単に MeSH と呼ばれる MEDLARS で用いられるソーラスには、その用語の配列、使用要素の構成などの点で異なる形態、内容を持ついくつかの使用目的に応じた MeSH があることを強調しておきたい。1975 年版の MEDLARS II MeSH 第 1 版からは、我々が日常用いている *Index Medicus* 用 MeSH もディスクリプターのグループ別(カテゴリー; 分類)配列が従来の 2 段階の階層性を持つ配列から最高

7 段階の階層を持つ機械検索・索引作成用 MeSH Tree Structures 同様に変更されたので、見掛け上はこれまでほど両者の間の差はなくなってきている。しかしその構成要素の面から見ると、なお両者の間の差は存在する。特にアルファベットのリストにおいては、*Index Medicus* 用 MeSH は機械検索・索引作成用 MeSH でディスクリプターの一種として用いられている minor descriptors, entry terms が参照語として用いられていること、各ディスクリプター使用上の註記が付けられていないこと、などの点で両者に大きな相違*1 がある。

これまでのべてきたように、日本ではまだオンライン方式による MEDLARS の機械検索は具体化されておらず、1971 年から JICST で行なわれて来ているバッチ処理方式による機械検索サービスのみが医学関係者に提供されているが、これについても我々医学図書館界では十分に利用されているとは言えない現状*2 であろう。しかし、我々が今後医学関係者に提供すべきサービスを考えた場合、目で見える索引のための MeSH 簡略版を、MEDLARS の唯一の用語集と考えてその紹介の記述を行なって行くことは賢明な方法ではないと思われるので、ここでは MeSH 本版*2 を対象にこの記事の記述を進めてゆくことにしたい。

お読みいただく過程で機械検索用の記述が混じっていて読みにくいことと思われるが、上記の意図を了としてお読みいただければ幸いである。

*1 アルファベットのリストと対で用いられる Tree Structures においては、Z カテゴリー(地名)のディスクリプター群が *Index Medicus* 用には入れられていない。

*2 NTIS 注文番号: MeSH 1976 Alphabetic List. PB-243-901, Tree Structures. PB-243-900.

A. 統計

1976 年度 MeSH に関する統計数を表 1 に示す。ここに記された要素の詳細については筆者の解説⁵⁾を参照していただきたい。しかしあまり MeSH に慣れておられない読者のために、以下の記述中、機械検索のためだけに用いられる要素、関連事項には☆印を老婆心ながら付しておくことにしたい。

この表から理解できるように、MeSH ディスクリプター使用上の註記がディスクリプター全体の 90% 近く(88.2%)に付けられていることは注目値することであり、このことは MeSH 利用に際して、我々利用者が先ずこの註記をよく読み、入力側のディスクリプター使用上の意図を正確に理解した後、目的とするディスクリプター

表1 1976年度MeSH統計数

☆＝機械検索・索引作成用MeSHのエレメント

ディスクリプター数	
Major descriptors	9,417
☆Minor descriptors	3,315
☆Geographics	303
☆Check tags	15
合計	13,050
その他	
☆註記	11,508 (この中の 372の註記は1976年版に内容を一致させるため、1975年版の内容が改められている。)
1976年度新ディスクリプター数	374
{ 化学物質以外のディスクリプター	(169)
{ 化学物質に関するディスクリプター	(205)
{ Major descriptors	(161)
☆ { Minor descriptors	(213)
酵素に関するディスクリプター数	530
1975 MeSH	(500)
1976 MeSHに追加	(30)
☆NON-MESH terms	267 (この中の12 (1975, 1976) は索引作成用に利用可能となった。)

を用いねばならぬことを示唆しているように思われる。

このことのみを取り上げて見ても、註記の印刷されていない *Index Medicus* 用 MeSH を情報サービスを行なう側の人間が用いることの不利なことは、御理解いただけたと思う。1976 年版註記付き MeSH アルファベットリストを御覧いただくと、リストの前の部分のページ (XXXVII~XXXVIII) に註記についての説明があるので、註記を読む前に、先ずこの部分をお読みになることをおすすめしておきたい。

B. カテゴリー別、新ディスクリプターの選択的紹介
別表1に参考事項を付け加えながら紹介してあるので御参照いただきたい。

前書きの繰り返しになるが、典拠図書の改版による細菌に関するディスクリプターの改訂は注目に値することのように思われる。その他、核酸、免疫、血液型、スポーツ関係にも多くの新しい ☆minor descriptor が導入されている。

C. 削除ディスクリプター

毎年行なわれている MeSH ディスクリプターの改訂に伴って出現する削除ディスクリプターとその代替として用いるべきディスクリプターの公式リストは、MeSH 本文の前の部分に印刷されている。

この削除ディスクリプターを内容的に検討して見ると、次の三つのグループに分けることができよう。第1

のグループは、意味的に同一の内容を持つが、その語形が変えられて新ディスクリプターとして用いられることになり、MeSH から削除されたグループ (WHEEL CHAIRS (1975) → WHEELCHAIRS (1976), ANTI-PERKINSON DRUGS (1975) → ANTIPERKINSON AGENTS (1976) 等)、第2のグループは、意味的に同一内容でない語が旧ディスクリプターの代替に新ディスクリプターとして用いられているグループ (HERPES VIRUS (1975) → HERPES VIRUSES (1976); ANHIDROSIS (1975) → HYPOHIDROSIS (1976)), そして代替ディスクリプターの形態が全く異なり、見掛け上 MeSH からこのディスクリプターが文字通り削除されたように見える第3のグループ*1 (GRAM POSITIVE BACTERIA (1975) → BACTERIA を用いるか、または適当な特定細菌名としてのディスクリプターを用いるよう指定されている (1976); MICROGLOSSIA (1975) → TONGUE/abnormalities (1976)), に分けることができよう。

ここではこのように多様な内容を持つ削除ディスクリプター中で、興味あるいくつかの例を表2にあげておこう。

*1 この第3のグループは、語形変化と共に意味的に狭→広、広→狭といった内容的統一性のない変化を伴う第2のグループと異なり、新ディスクリプターには削除ディスクリプター

表2 削除ディスクリプターとその代替ディスクリプター (部分, 1976 MeSH)

1975年版MeSHから削除

ABO FACTORS

ANHIDROSIS

ATHLETICS

BIRTH CONTROL

DRUG ADDICTION

DYSSOCIAL BEHAVIOR

see under 参照がSOCIOPATHIC PERSONALITYに付けられていた。

EMOTIONAL STRESS

GEL FILTRATION

LESBIANISM

MIRROR WRITING

see under 参照がHANDWRITINGに付けられていた。

MOHAMMEDANISM

NECK NEOPLASMS

NEGROES

RH FACTORS

SOCIOPATHIC PERSONALITY

1976年版MeSH代替新ディスクリプター

ABO BLOOD-GROUP SYSTEM

HYPOHIDROSIS

SPORTS

FAMILY PLANNING

DRUG DEPENDENCE

ANTISOCIAL PERSONALITY

STRESS, PSYCHOLOGICAL

CHROMATOGRAPHY, GEL

HOMOSEXUALITY, FEMALE

DOMINANCE, CEREBRAL

ISLAM

HEAD AND NECK NEOPLASMS

BLACKS

RH-HR BLOOD-GROUP SYSTEM

ANTISOCIAL PERSONALITY

の内容を含むより広義のディスクリプターが指定されている
ようである。

D. MEDLARS II MeSH, entry vocabulary (参
照語; see および see under 参照語) を索引作成
に用いる場合の問題点

既に筆者も解説⁵⁾しているように, MEDLARS II
MeSH (本版) では, 従来 *Index Medicus* 用主題索引
の見出し語として用いられていた件名 (main headings)
以外に, それら件名の参照語, その他をも入出力に直接
用いることができるようシステムの設計がなされている。

このように MeSH 構成要素の入出力における利用範
囲が拡大されたことは, 索引作成, 機械検索の関係者に
とっては好ましいことであったが, 同時に *Index Medi-*
cus 等の目で見える書誌, 索引誌の利用者にとっては, 好
ましからざる問題をも発生して来ている。

ここではそれら問題のいくつかを紹介してみよう。

1. See under 参照語 (★minor descriptors) と *Index Medicus* 用指定対応ディスクリプター (major descriptors) 間のカテゴリーの不一致から発生する qualifier (限定子; 副件名) 使用上の問題

この問題は, 実際のシステムではディスクリプターの
手直しにより既に問題が発生しなくなっているが, 何か
のお役に立つことと思われるので, ここで紹介させてお
いていただく。

MEDLARS の入力規則では, 特定のディスクリプタ

ーには特定の限定子しか結合させぬよう, 両者の意味内
容から考えた結合指定が行なわれている。すなわち, 解
剖学用語グループを意味するAカテゴリーと指定された
ディスクリプターには, これに意味的に結合可能と考え
られる限定子群を全部で68 (1976) の限定子群中から選
定し, このAカテゴリー結合可能グループと指定された
限定子群のみが, 解剖学用語に関するディスクリプター
に用いられることになる。

ここで取り上げる問題は, ディスクリプター参照語と
被参照語のカテゴリー指定が異なり, 本来入力規則に反
する両者の組み合わせが出現してしまった例である。

1975年版 MeSH には, ★minor descriptor であるC
カテゴリー(疾病)指定の MICROGLOSSIA に see un-
der 被参照語としてAカテゴリーディスクリプターの
TONGUE が与えられている。その結果, “Etiology of
microglossia” なる索引対象に索引作成者は入力規則に
従ってディスクリプター MICROGLOSSIA (C) と限定
子 etiology (C, F3) を結合し, MICROGLOSSIA/etio-
logy を索引語として与えることになる。そこで *Index*
Medicus 用見出し語は, コンピューター内部で前述の参
照指示に従い, ★minor descriptor から major descri-
ptor への自動変換 (mapping) が行なわれ, TONGUE/
etiology なる奇妙な意味的組み合わせの索引語が “小舌
(症)の病因” に対して用いられてしまうことになる。

現在ではこの種の問題が発生しないよう, たとえば従
来 SPERM TRANSPORT (G) see under SPERMA-

TOZOA (A) とされていた参照指示を, SPERM TRANSPORT (G) なる参照語と一致するカテゴリーの被参照語に変える(この場合は, 参照語を ★minor descriptor から major descriptor に昇格させることで処理しているが)方法で, 問題発生防止対策が立てられている。

2. ★Entry term (ディスクリプター同義語) と対応 ディスクリプター間の意味の不一致から発生する 検索時のノイズ

MeSH では ★entry term である SGOT (serum glutamic-oxaloacetic transaminase) に対して, “see ASPARTATE AMINOTRANSFERASE” と, 同義参照である see 参照を付けている。また同様に, SGPT (serum glutamic-pyruvic transaminase) に “see ALANINE AMINOTRANSFERASE” と参照を付けている。

問題は, これら血液中(厳密には血清中)の酵素を意味する参照語に, 同義酵素名を血液中といった限定なしで被参照語として MeSH が与えていることにある。確かに実用上は, この両者を同義と考えてもほとんど問題はおこらない。しかし, 意味的にこれら被参照語は, 血液中の酵素を含むこれら酵素のすべてを意味しているものでなければならないはずである。

そこで真の意味での血液中のこれら酵素を索引するためには, 単に MeSH の参照に従ってこれら酵素名のみを索引語として用いるのではなく, SGOT/blood することを MeSH 註記は指示している。

これと同様に注意を要する see 参照の不備な例として, 次のディスクリプターが資料¹⁾にあげられているが, 詳しくは各々の被参照語の下に記されている see 参照を注意して見ていただきたい。

CANDIDIASIS see MONILIASIS

HYDATID CYST see ECHINOCOCCOSIS

RINGWORM see TINEA

TAPEWORMS see CESTODA

VITAMIN DEFICIENCY see AVITAMINOSIS

3. 非獣医学用語へ獣医学用語が変換されることについての問題

人間を中心とした医学文献書誌情報検索システムである MEDLARS は, 入力作業において, ヒトと動物固有の事項を区別するため, 限定子 “veterinary” を疾患, 治療等に関するディスクリプター (C, E カテゴリー) に付することによりその目的を達成している。

しかし 1 にあげた例と類似の問題がこの限定子を用いた際発生することがある。MeSH 中で動物(獣医学)疾患に関するカテゴリー (C22) を与えられている ★minor descriptor の一つに ENTEROTOXEMIA なるディスクリプターがある。このディスクリプターに see under 参照が付され, 被参照語として CLOSTRIDIUM INFECTIONS (C1) が指定されている。

問題は, ENTEROTOXEMIA は, 動物固有の疾患であるから, この疾患に対しては限定子 “veterinary” を付す必要がないと索引作成者が考え ENTEROTOXEMIA のみを索引語として用いることから発生する。度々繰り返すことになるが, こうするとコンピューターは, この参照指示に従い, 動物固有の疾患である ENTEROTOXEMIA をヒト, その他の生物を含めた被参照語である CLOSTRIDIUM INFECTIONS に自動変換し, これを *Index Medicus* の見出し語として, 機械検索用ディスクリプターである ENTEROTOXEMIA に替えて与えることになる。その結果, 2 で説明したことと同様の問題が発生する。

MeSH 註記はこの種の問題発生防止のため ENTEROTOXEMIA/veterinary (IM; *Index Medicus* 見出し語指定) と索引するよりも, ENTEROTOXEMIANIM; 機械検索専用ディスクリプター指定) と CLOSTRIDIUM INFECTIONS/veterinary (IM) とすることをすすめている。

次にあげる ★minor descriptors (1976) は上にあげた例と同様の問題を持つものとして資料¹⁾にあげられている。

DOURINE; ECTROMELIA, INFECTIOUS; GRANULOMA, EQUINE CUTANEOUS; LUMPY WOOL DISEASE; MAL DE CADERAS; NAGANA; SHIPPING FEVER

4. ガンマ線 (GAMMA RAYS), X線 (X-RAYS) 陰極線 (CATHODE RAYS) を IM ディスクリ プターとして用いる場合の問題

1975年度の MeSH では ★minor descriptor である GAMMA RAYS; X-RAYS; CATHODE RAYS に対応する IM ディスクリプターとして RADIATION を指定していたが, 本年(1976)は, それを RADIATION, IONIZING に変更した。そこでこれらイオン化放射線である X線やガンマ線の影響について一般の索引作成規則により索引語を与えると, RADIATION, IONIZING (IM) と RADIATION EFFECTS (IM) が *Index*

Medicus 用見出し語とされることになる。しかし索引誌作成のための経済的理由から、従来行なってきたように、非イオン化放射線に対しては RADIATION EFFECTS を NIM 指定とし、イオン化放射線に対しては IM 指定とする方針を守ろうとすると、上にあげた二つのディスクリプターは、内容的に重複して用いられてしまうことになる。このような場合は、索引作成側でイオン化放射線に関するディスクリプターを (NIM) とし、*Index Medicus* 用見出し語の無用な重複を防ぐよう作業者は指示されている。

5. 限定子/analogs & derivatives を ★minor descriptor と組み合わせて用いた場合の *Index Medicus* 用見出し語における問題

この問題は、単数形の ★minor descriptor に analogs & derivatives を組み合わせて用い、それを (IM) と指定し、指定された IM 用対応ディスクリプターが複数形であった場合における問題である。

元来、analogs & derivatives は単数形のディスクリプターと組み合わせて用いられるべき限定子である。それ故、PENICILLIN G/analogs & derivatives という用い方は正しいが、PENICILLINS/analogs & derivatives という用い方は正しくないことになる。しかし、現実の MeSH の see under 参照では、“GLYOXAL see under ALDEHYDES” といった単数形ディスクリプターから複数形ディスクリプターへの参照が沢山存在し、通常の方法で索引が行なわれると、PENICILLINS/analogs & derivatives の例のようなディスクリプターと限定子間の意味上の不要な重複が、実際に *Index Medicus* の見出し語として出現することになる。

MeSH 註記はこの現象を防止するために、上例のような意味上の不要な重複組み合わせの可能性のある ★minor descriptor に対して、限定子 analogs & derivatives を (NIM) 指定の時のみに組み合わせて用いるよう指示している。

III. Qualifiers (限定子; 副件名)

A. 適用ディスクリプターの拡大; C4 へ /blood supply と /secretion を結合可能にしたこと

1976 年度における限定子に関する唯一の変更は、blood supply (血液供給) と secretion (分泌) が新生物(腫瘍)のカテゴリである C4 へ適用可能^{*1}とされたことである。この結果、“vasculature of angioma” に対して HEMANGIOMA/blood supply が、“Vascu-

ture of angioma of the liver” に対して HEMANGIOMA/blood supply と LIVER NEOPLASMS/blood supply なるディスクリプター付与が可能となった。Secretion についても同様に腫瘍ディスクリプター(病理, 組織分類および発生部位)に結合可能である。

その他、MeSH 註記に記されているし、上に紹介したような大きな変更ではないが、1975 年度では科学技術、産業等に関する J カテゴリーへの使用を禁止されていた限定子 /radiation effects (放射線の影響) が本年はそのディスクリプターの一部へ用いることを認められたこと、精神医学、心理学に関する F カテゴリーの (F1, F2) ディスクリプターの一部に /physiology (生理学) を積極的に用いるよう註記付けられていること^{*2}、などを御紹介しておきたい。

*1 C4 に対しては、1975 年度に /analysis が従来の A カテゴリーへの適用に加えて付与可能となっている。

*2 特に脳生理学、心理的プロセスと他の器官との関係や生理的メカニズムなどに関する文献に対して有効である。

たとえば、“Muscle contraction during motor activity” に対して MUSCLE CONTRACTION (G) と MOTOR ACTIVITY (F)/physiology を、“Effect of thinking on the blood pressure” に対して THINKING (F)/physiology と BLOOD PRESSURE (G) を、“Effect of stomach function on feeding behavior” に対して STOMACH (A)/physiology と FEEDING BEHAVIOR (F)/physiology といったディスクリプターの付与が行なわれる。

B. 同一ディスクリプターへの限定子使用の際の上限数

既に筆者も紹介⁶⁾申し上げているように、MEDLARS では 1974, 1975 年の 2 か年にわたって限定子をディスクリプター同様、適用カテゴリーグループごとに階層構造化し、それを利用することによって、同一ディスクリプターへの異なる限定子の無用な重複使用を制限している。たとえば、/metabolism (代謝) なる限定子は、その下位階層に置かれている /blood (血液), /urine (尿), /analysis (分析), /biosynthesis (生合成) 等をも意味的に包括しているとし、これら下位階層の限定子をいくつも与える必要のある 1 ディスクリプターに対しては、その上位階層限定子/metabolism のみを用いさせるよう規則付けているのが、その例である。

本年の入力方針も従来同様の考え方が踏襲され、総説などのように単一主題のすべての面について記述されている索引対象以外は、同一ディスクリプターに対する限

定子付与の上限数を3個までと定めている。この際、限定子付与の一貫性を保つため、“Blood levels of X and metabolism of X in melanoma of the tongue” に対する限定子は、MELANOMA/blood; TONGUE NEOPLASMS/metabolism; X/metabolism とすべきではなく、いずれのディスクリプターへも /metabolism を用いるよう索引作成者は注意されている。

また単一ディスクリプターと複数個の限定子との組み合わせを行なった際、それら組み合わせ中の一組のみが IM 指定とされる規則も従来と同様で、この点についての変更^{*1}はされていない。

*1 /analogs & derivatives については後述 (IV章, F, 2) するように、例外規定が設けられている。

IV. 入力作業

ここでは入力作業全般に関する事項と、特に化学物質、薬物に関する内容紹介をさせていただくことにしよう。

A. モノグラフの入力開始

1975 年から始まった MEDLARS II は、前にのべたように、その検索語に索引作成者が MeSH から選択したディスクリプターと、入力文献中の表題および英文抄録(全入力文献の半数以上)中の語の双方を用いている。しかしその検索対象文献は、MEDLARS I 同様に逐次刊行物中の文献のみであった。それが入力開始時期は未だ定められていないが²⁾、本年からモノグラフも MEDLARS の情報源中に加えられ、*Index Medicus* や MEDLINE の利用者の用に供されることになった。

MEDLARS II でいうモノグラフとは、MEDLARS 収録誌リストに収録されていないか、または International Standard Serial Number (ISSN) を与えられていない種類の文献を指し、具体的には諸会議議事録 (proceedings)、シンポジウム、座談会記録等がそれに相当するようである。

これらモノグラフ類は、NLM の目録部門で他のモノグラフと共に作成された目録 (descriptive cataloging) — current catalog または CATLINE (CATalog-on-LINE) 経由一を利用し、目録部門が選定し送付して来るモノグラフに対して、索引作成部門が逐次刊行物中の文献に対する主題索引作成規則をそのまま適用し、主題索引用ディスクリプターを与える予定とのこと^{1), 2)}である。

次にその記述形式を紹介しておく。

The nature of flagellar antigens. Koffler H, et al. In: Nowotny A, ed. Conference on Cellular Antigens, Philadelphia, 1971. New York, Springer, 1972. pp. 31-66. QW 570 C7485c 1971

B. 2段階索引作成方式 (Two-tiered indexing)

この項目も部分的には既にのべてきたことと重複するが、MEDLARS II の入力に関する重要な事項と思われるので、もう一度ここでまとめさせていただくことにしたい。

2段階索引作成方式とは、二つの異なった方式の索引語——標準化され、一定数の用語を持つ MeSH ディスクリプターおよび著者の用いた文献中の表題、抄録中等の用語——により行なう索引作成方式をいう^{*1}。

この方式の第1段階 (the first tier) で索引対象となるものは、文献中の主要事項であり、第2段階 (the second tier) でのそれは、第1段階で対象とした主要事項以外で文献中に存在する、索引対象とするに値する事項である。そして従来索引対象とされていた特に文献中で強調されていない実験技法や、あまり有効性があるとは思われぬディスクリプターの複雑な組み合わせ等の事項は、第3段階の対象と考え、この段階の事項は現在のシステムでは索引対象とする必要がないので、対象から除外され、MeSH 中のそれに関連するディスクリプターにも索引語として用いないよう註記が付けられている。

次にその具体例をあげておこう。

- (1) 論議の対象とされていない日常用いられる技法、たとえば、脳関係文献における脳波記録(法)、心臓関係文献における心電図記録(法)、糖尿病関係文献における耐糖性負荷試験、代謝研究におけるトリチウムでラベルされたチミジン、放射性同位体をトレーサーとして用いた技法、等がそれである。
- (2) 索引対象を限定するための組み合わせ用ディスクリプター (fixed coordinates); 化学分野で用いられる NIM 指定の塩類その他の化学物質に関するもの、症候群名の索引作成時に用いられる多くのその特徴を表現するためのディスクリプター等。
- (3) 本文中で論議の対象とされていない表中の事項; アミノ酸一般に関する文献中に記載されている本文の表中の特定アミノ酸名。
- (4) 余分で、重複して、検索にほとんど役に立たないディスクリプター; OXYGEN/blood と BLOOD GAS ANALYSIS, KIDNEY/radiography と UROGRAPHY.

*1 この部分と後述の部分との論理的なつながりが資料 1) でも明確でない。しかし、その意とするところは理解できるので、そのまま紹介させていただくことにする。

C. ディスクリプターの上限使用数

1970 年に作成された索引作成作業用紙 (Data Forms) 以来、ディスクリプター記入欄は 35 存在するが、過去数年来、その上限使用数は 25 とされて来ている。しかも B でのべたような入力・検索方式の進歩により、ディスクリプターを数多く用いる必要性は一層減ぜられてきている。そこで 100 ページ以上の記述から成る “annual review” 類以外の索引対象に対しては、機械検索用の照合事項を含めて本年のディスクリプター上限使用数は 25*1 と設定されている。これに関連した例として、たとえば MEDLARS I において piprozolin に対するディスクリプターに CHOLAGOGUES AND CHOLERETICS; THIAZOLES; PIPERIDINES; ACETIC ACIDS および KETONES を与えていたが、1976 年度の MEDLARS II では THIAZOLES のみとなり、検索は piprozolin を用いて行なわれる (MEDLINE) であろう、との説明がある²⁾。

*1 これは F. W. Lancaster の報告⁷⁾に見られる、情報検索システムにおいて、その全収録文献中から必要文献を検索するために用いる検索 (索引) 語数と再現率との関係を検討した実験結果報告からも容認できる。彼はこの報告の中で、付与索引語総数 50 (付与所要時間、40 分間) 中、作業の始めに付与された適切な 20 (付与所要時間 10 分間) を検索に用いることにより、必要文献の 90% を検索結果として期待できる (90% の再現率)、とのべている。

D. 索引作成用補助資料とその利用有効年限

MEDLARS でどのような約束の下にその索引語 (検索語) が用いられているかを知るのに必要な資料として、公式に認められているものは、註記付アルファベット配列の MeSH (Annotated MeSH), MEDLARS 索引作成用マニュアル、およびテクニカルノートとその補遺である。それ以外に参考にすべき資料としては、これらの資料に記載された約束によって作成された索引誌である *Index Medicus*, ことにその累積版を参照することが推奨されている。また過去にこれら以外の各種補助資料も発行されており、筆者もその紹介⁸⁾をしたこともあるが、これらを参照する際に注意すべきことは、その発行年度である。これら資料はいずれもその発行年度の MeSH を対象に記述が行なわれており、同年度の MeSH を対象として利用するのには何の問題もない。しかしそ

の翌年度の MeSH に対しては、多少の MeSH ディスクリプターの変更が行なわれているのが常であることから、やや注意して用いる必要があり、3 年後の MeSH に対して用いる際にはよく注意して用いる必要がある。

MEDLARS 索引作成用マニュアルの改訂とその様式の変更が現在検討されているとのことである。

E. NLM 索引作成部門における作業所要時間の測定

日常の図書館業務において、我々は作業効率、コスト分析といった、いわば経営管理点観点からの留意が、米国のそれに格段の相違で劣っていることを認めざるを得まい。既に NLM では筆者が MEDLARS の研修に参加していた 1968 年当時から——特に索引作成部門は、他の検索、目録等、筆者の関係した部門のみで比較しても厳しかったように感ぜられたが——この点に関して注意がはらわれていた。

本年 (1976) は Indexing orientation の資料¹⁾にもこの点に関して 1 項目設け、雑誌受入れ、索引作成、校閲、コンピューター入力、校正の各段階で所要時間の統計記入を行ない、統計を作成し、以前から公表されている MEDLARS 入力誌の処理所要時間 (Priority 1 指定雑誌は、受入れ後 1 週間以内、Priority 2 指定雑誌は同様に 2 週間以内) の保持への参考資料とする、とのべている。

F. 化学物質、薬物の索引作成

これも既にのべてきたことの部分的な繰り返しになるが、MEDLARS II MeSH になってからこの 2 か年間 (1975, 1976) に、化学物質、薬物に関する参照語が 2,500 以上も増加されていること、それに表題、抄録中の語をも検索語として利用可能なシステム設計が行なわれたことから、MEDLARS I で行なわれていたような、化学物質索引作成のために多数のディスクリプターの組み合わせを行なうことは不要になっている。

しかし筆者の考えでは、なおこの分野の索引作成 (検索) には問題があると思えるが、本年は次に紹介するような指針が作成され、その上、化学を専攻しなかった一般の索引作成者と化学専門の索引作成者の役割を明確に分けている。次に紹介する (1) から (6) に該当する事項は一般索引作成者がその指示に従って索引し、(7) に関しては化学専門家に必ず任せられるように、とこの指針はのべている。

(1) 単純化合物

次にあげる接頭辞 (prefixes) に先行される単純化合物は、複数形の MeSH ディスクリプターまたは単数形ディスクリプターに analogs & derivatives を付けて索引

せよ。	
acetoxyl	fluoro
acetyl	halo
acyl	heptyl
aldo	hexyl
alkoxy	homo
alkyl	iodo
alkyloxy	iso
aryl	keto
aryloxy	methoxy
aza	methyl
benzyl	mono およびこれ以外で
bis	ここにあげられたもの
bromo	naphthoxy
butoxy	naphthyl
butyl	nitro
butyloxy	nor
butyryl	octyl
carbo	oxa
carboxyl	oxo
chloro	pentoxyl
dealkyl	pentyl
deaza	phenoxy
dehydro	phenyl
demethyl	propoxy
deoxy	propyl
desoxy	propyloxy
di およびこれ以外でここ	tetra およびこれ以外で
にあげられたもの	ここにあげられたもの
epoxy	thia
ethoxy	tri およびこれ以外でこ
ethyl	ここにあげられたもの

(2) 単純化合物—/analogs & derivatives を用いて
はならぬ単純化合物

次にあげる接頭辞に先行される単純化合物は /analogs & derivatives を付さずに MeSH ディスクリプターで索引せよ。

allo	D, d
alpha	dextro
anti	DL, dl
asym	epi
beta	epsilon
cis	erythro

gamma	P, p
L, l	para
levo	R, rac
m	S
meta	sym
N, n	syn
O, o	threo
omega	trans
ortho	

(3) 無機化合物の塩類—/analogs & derivatives および塩に関するディスクリプターを用いてはならぬ無機化合物の塩類

次にあげる無機化合物の塩類は MeSH ディスクリプターのみで索引し, /analogs & derivatives や塩に関するディスクリプターを用いてはならない。

bromhydrate
chlorhydrate
dihydrate
dihydrobromide
dihydrochloride
hydrobromate, -ide, -ite
hydrochlorate, -ide, -ite
hydrofluorate, -ide, -ite
hydroiodate, -ide, -ite
monohydrate
monohydrobromide
monohydrochloride
monohydrofluoride
monohydroiodide

(4) 有機化合物の塩類—/analogs & derivatives および特別の場合以外は塩に関するディスクリプターを用いてはならぬ有機化合物の塩類

有機化合物の塩類は, 特に塩に論議の中心が置かれている場合以外は, 有機化合物ディスクリプターのみで索引し, /analogs & derivatives および塩に関するディスクリプターを用いてはならない。

塩に関するディスクリプターを用いる場合は, (NIM) として用いよ。

sodium diethyldithiocarbamate=
DIETHYLDITHIOCARBAMATE
guanethidine sulfate=GUANETHIDINE
hetacillin potassium=HETACILLIN
imidocarb HCl=IMIDOCARB

levamisole chlorhydrate=LEVAMISOLE

(5) —ATES (または IC ACIDS) で終る酸類
有機物質のカテゴリー (D2) 中の酸類で —ATES または IC ACIDS で語尾の終る化合物を索引する際は、
適当な —ATES の語尾を持つ MeSH ディスクリプターを用いよ。もし —ATES の語尾を持つ適当なディ
スクリプターが無い場合は IC ACIDS の語尾を持つディ
スクリプターを用いよ。

octyl acetate=ACETATES

ethyl formate=FORMATES

propyl butyrates=BUTYRATES

methyl propionates=PROPIONATES

(6) エステル——特定の薬物ディスクリプターを持
つエステル

標記の場合は、薬物ディスクリプターのみに限定子
/analogs & derivatives を付して用いよ。

beclo methasone propionate=

BECLOMETHASONE/analogs & derivatives

betamethasone valerate=

BETAMETHASONE/analogs & derivatives

しかし DESOXYCORTICOSTRONE ACETATE

(DOCA)=DESOXYCORTICOSTERONE である

のに注意せよ。

(7) 専門の化学物質索引作成者に任すべき対象

a. 次の接頭辞で始まる化合物

amino	hydroxy
diamino	tetrahydro
dihydro	thio
dihydroxy	trihydro
hydro	

b. すべてのステロイド類

c. ベンゼン化合物

d. 複雑な化合物

複雑な化合物、たとえば 3 個以上の成分(components)
を含む hydroxycyclohexylamine ; 2-(3-indolyl)
ethylamine ; N-(o-chlorobenzyl)- α -methylphene-
thylamine 等。

e. 実験段階にある薬物

たとえば, Bayer D 205, SK 1133 等。

f. 一般索引作成者が索引作成に確信を持ってないすべ
ての化学物質, 薬物

1. 限定子/analogs & derivatives を用いてはならぬ

場合

最も多くこの限定子が付けられる MeSH ディスクリ
プターは単数形であり、関連接頭辞は IV 章, F の (1)
にあげられている。

次にあげる項目は、この限定子を用いてはならぬ対象
である。

- (1) 元素名および無機化合物 ; (D1) カテゴリー
ディスクリプター
- (2) 複数形の MeSH ディスクリプター
- (3) 酵素名
- (4) 作用名としてのディスクリプター (HYPO-
GLYCEMIC AGENTS 等)
- (5) BLOOD PROTEINS を含むすべての血液蛋白
に関するディスクリプター
- (6) 化合物の塩類 (HCl, -ide, -ate, -ite)
- (7) 実験段階にある薬物名
- (8) D24 (免疫因子, 生物因子), D25 (医療材料,
歯科材), D26 (料その他の薬物, その他の作用物質)
カテゴリーに属するディスクリプターの大部分
- (9) F の (2), (3), (4) であげられた接頭辞を持
つ化合物

2. /analogs & derivatives 以外の限定子を追加使用 する場合

索引対象文献の主要テーマが化学物質、薬物の類似体
または誘導体であった場合、それに対応して用いられる
ディスクリプターは、/analogs & derivatives との組み
合わせを *Index Medicus* 用見出し語 (IM) とし、他の
必要とする限定子との組み合わせを機械検索用索引語
(NIM) とするよう作業者は指示されている。

そこで “Therapeutic use of methylprogesterone”
に対しては, PROGESTERONE/analogs & derivatives
(IM) と PROGESTERONE/therapeutic use (NIM)
という一対の索引語が与えられることになる。

一般に前にものべたように (II 章, B), 同一ディスクリ
プターに対して付した異なった限定子のいずれをも
(IM) と指定することは、作業規則で禁止されている。
したがって “Determination of progesterone in the
blood and urine” に対して, PROGESTERONE/blood
(IM), PROGESTERONE/urine (IM) と索引語を与
えることは許されない。

しかし例外として、この用法が次のような場合は許さ
れる。すなわち, “Therapeutic use of progesterone

and methylprogesterone” に対しては, PROGESTERONE/therapeutic use (IM)……親化合物 progesterone に対して, と PROGESTERONE/analogs & derivatives (IM)……progesterone の誘導体としての methylprogesterone に対して, の双方を (IM) とすることが認められている。

単数形の ☆minor descriptor (IM) が複数形の major descriptor にコンピューター内部で MeSH 参照指示により変換されることによる /analogs & derivatives 使用上の意味上の混乱とその防止策については, D章の5で紹介済みである。

G. 生理作用に関するディスクリプター使用上の注意
一般に索引作成者は, このグループのディスクリプター (ANTIBIOTICS; PSYCHOTROPIC DRUGS; SYMPATHOMIMETICS; ANTIHYPERTENSIVE AGENTS 等) を用いることに困難を感じていない。

問題は, このグループのディスクリプターを化学的観点から扱った場合に発生し, 新薬や従来からある薬物の新機能について論ぜられている論文等の索引時に問題となる。もしその薬物が作用と化学的観点の二つの面から論ぜられている場合は, 従来の索引作成規則に従い, この二つの観点を表現するディスクリプターを用いればよいので問題はない。

しかしこれら生理作用に関する薬物ディスクリプターを, 生理機能とか疾病そのものに用いる場合, 注意が必要となる。たとえば, EMETICS (催吐薬) と VOMITING/chemically induced (嘔吐/化学的誘発) のいずれを索引語とするか, 問題となることがある。ある論文では, 催吐薬を嘔吐誘発薬として論じていない場合もあろうし, またある論文では化学的嘔吐誘発を催吐薬の面から論じていない場合もあろうし, またその双方について論じている場合もあろう。

MEDLARS の索引作成指針¹⁾は, それぞれの論文の力点の置かれている面について, それぞれ適したディスクリプターを, 単独または重複して用いるよう指示している。

H. 酵素

II 章, A の MeSH 統計の項でのべたように, 1976 年度の MeSH には, 530 の酵素に関するディスクリプターが取り入れられている。

これら MeSH ディスクリプターで処理できない酵素名の索引作成については, 既に作成されている “Enzyme Key (1974)” を用いることなく, 酵素専門の索引作成者

にその処理を, 現在改訂中の “Enzyme Key” が完成するまで委ねるよう, 一般作業者は指示されている。

I. ☆機械検索用照合事項 (Check tags)

1. ☆ANIMAL (動物)

1975 年以来, 特定の動物に関するディスクリプターを用いた場合, 重複してそれに対応する照合事項^{*1}を用いる必要はないと, 索引作成者は指示されてきた。すなわち, MICE, INBRED DBA をディスクリプターに用いれば, 照合事項の MICE を重複して用いる必要はなかったし, 1975 年版の MeSH 該当ディスクリプターにもその種の註記が付されている。

しかし, 本年 (1976) から再び検索者側の要求により, 1975 年前の索引作成規則に戻り, 特定動物名と対応上位照合事項を重複して用いるよう規則が変更された。その理由は, 日常一般の機械検索時に, 常に Tree Structures によりこれら諸動物名の上位ディスクリプターを求めて検索式を組む^{*2}より, 索引作成者の作業を信頼して該当照合事項を用いた方が得策との検索側の判断から, 規則の変更が行なわれたことにある。

この変更に従って本年度の MeSH 註記が変更されている。ただこれに次の変更を加えておいていただきたいとのことである³⁾。

(ディスクリプター) (CRICETUS
MESOCRICETUS

(上記二つのディスクリプターはいずれもハムスターの一種である)。

(誤) (do not bother to
check HAMSTERS
(正) (do not forget to
check HAMSTERS

なお, 一般に照合事項に照合される動物類は *Index Medicus* 見出し語に指定されないが, 普通実験動物として用いられない動物が実験の対象として用いられている場合, たとえばキリンの血圧に関する論文等の場合, 動物名は IM 指定とされる。

索引作成者は, 次の規則により動物名を IM 指定とするか否かを決定するよう指示されている。

- (1) 実験動物として普通に用いられている動物名は, 照合事項または NIM 指定にせよ。
- (2) 実験動物として普通用いられない動物名は, たとえそれが実験に用いられたものであっても, 適当な限定子と共に IM 指定で用いよ。
- (3) 解剖, 生理学研究に用いられる動物, ことに比較

研究に用いられる動物名は、常に限定子を付して IM 指定で用いよ。これらの大部分は獣医学分野で用いられる動物である。MeSH は IM 指定で用いる動物名に付与可能な限定子についての註記を付している。

*1 その項目についてはその後一部変更されているが、参考文献 9) の 209 ページで紹介した Indexed Citation Form の右欄②が参考になろう。照合事項としての表記は、MeSH ディスクリプターの ANIMALS ではなく、ANIMAL と単数形が用いられている。

*2 MeSH tree 番号の上位のもの一つを用い、それに属する下位階層のディスクリプターのすべてを一度に検索語として用いる“explosion”と呼ばれる方法で行なわれる。

2. CASE REPORT (症例報告)

検索者、索引作成者からの要求により本年(1976)からこの照合事項の適用範囲が変更された。

すなわち 1968 年から 1975 年までの MEDLARS 索引作成規則で定められた、“単なる (merely)” 症例報告—疫学的観点を持つ (an epidemiological slant)” のみを対象とする^{*1}ことから、1967 年以前に対象としていた”すべての症例報告——たとえそれが総説中で扱われている症例報告であっても——を照合対象とするよう変更された。

この決定によって、1976 年度の索引作成作業においては、論文の本体となる主題中に加えて、説明的にあげられている症例報告 (1 例か多数例かを問わず) に対しても、この照合事項が用いられることになった。多くの臨床研究、学術研究は、この種の症例報告を含んでいるものである。

*1 その結果、全入力文献のわずか 1.5 % に対してのみ、この照合事項が用いられた結果となっていた。

V. おわりに

MEDLARS II の 1976 年度入力作業方針の紹介を終るにあたり、貴重な資料を貸与下さった日本の MEDLARS センターである日本科学技術情報センター MEDLARS 担当、西川正洋氏および筆者の個人的事情から原稿提出を約束の時より数か月遅らせてしまったのにもかかわらず、文句一言言わず待っていて下さった編集担当委員の東京慈恵会医科大学附属図書館の裏田和夫氏に心から感謝の意を表させていただきたいと思います。

なお、この記事では内容、作成のための時間の制約から断片的にしかふれることのできなかった註記付き MeSH について、既にその必要性を筆者が指摘⁹⁾ (p.194 ~5) もし、実際に発行されてから 3 か年目になるので、

限定子、機械検索用照合事項の用法を含めて、新 *Index Medicus* の発行された 1960 年以降改良され続けてきた MeSH の変遷の後をたどりながら、その正しい用法について検討する機会をこの誌上で与えられれば幸いであると考えています。

参考文献

- 1) National Library of Medicine: 1976 *Indexing Orientation*, 1975, 10. 54 p.
- 2) Charen, Thelma: 1976 *Indexing orientation. Library Network/MEDLARS Technical Bulletin*: 5 ~9, 1975, 10.
- 3) 菅利信, 後藤敬治, 河島裕子: 「MeSH による医学用語の体系的考察」に関するアンケート集計結果報告 1975, 9. 9 p.
- 4) JICST—MEDLARS サービスの概況 (東西南北, 国内ニュース), 「医学図書館」21(1): 77, 1974.
- 5) 後藤敬治: MEDLARS II: 1975 年度検索エレメントおよび日本の現状, 「医学図書館」21(1): 37~52, 1974.
- 6) 後藤敬治: MEDLARS: 1974 年度索引作成方針の変更と新規追加事項および JICST 研修会のことなど 「医学図書館」20(2): 154, 1973.
- 7) Lancaster, F. W.: The cost-effectiveness analysis of information retrieval and dissemination systems. *Journal of the American Society for Information Science*, 22(1): 18~19, 1971.
- 8) 後藤敬治: MEDLARS: 入力技術的問題, 1. 入力作業のあらまし, 入力対象雑誌と論文, 作業用 tool 類および索引作成者について, 「医学図書館」19(1): 35~54, 1972.
- 9) 後藤敬治: MEDLARS: 入力技術的問題, 2. 索引作成における技術上の問題と全体へのまとめ 「医学図書館」19(2): 167~214, 1972.

(昭和 51 年 1 月 22 日受付)

I 章 * 2 追加分 昭和 51 年 7 月から JICST は JOIS-I (JICST On-line Information System) の一部として、その具体化の第 1 歩を踏み出した。日米以外の MEDLINE サービス実施国としては、カナダ、フランス、スイス (WHO)、オーストラリア、ブラジル、スウェーデンが近著の資料 (Communication in the service of American health...A bicentennial report from the National Library of Medicine. NIH 1976. p.98) に記載されている。

別表1 1976年度MeSH新ディスクリプター(選択的に抽出)

記号(*, ※)の付けられていないディスクリプターは, major descriptorを意味している。

A カテゴリー (解剖学用語)

AFFERENT PATHWAYS

これらのディスクリプターは, 1975年版MeSHではNON MESH termであった。

Efferent pathways

PIGMENT EPITHELIUM OF EYE

RETINAL PIGMENT EPITHELIUM からsee参照が付けられている。

B 3 カテゴリー (細菌)

典拠図書である*Bergey's manual of determinative bacteriology*の改版(7版から8版(1974))により, このカテゴリーのディスクリプターは大幅に改訂されている。しかし, その旧ディスクリプターの大部分は参照語¹⁾(☆entry terms)として残されているので, 実用上問題は無い。

GRAM-NEGATIVE AEROBIC BACTERIA

GRAM-NEGATIVE ANAEROBIC BACTERIA

GRAM-NEGATIVE CHEMOLITHOTROPHIC BACTERIA

1975年度のGRAM-NEGATIVE BACTERIAとGRAM-POSITIVE BACTERIAは削除され, これらが新しくディスクリプターとされている。

次に1975年度のこの分野のディスクリプターが, 典拠の命名変更により1976年度MeSHでどのように変更されたか, 比較のために併記して記す。対応ディスクリプターの記されていないものは, 全くの新ディスクリプターである。

(1975)

MYCOPLASMATAEAE

BEGGIATOALES

MICROTATOBIOES

THIORHODACEAE

CORYNEBACTERIACEAE

またはBREVIBACTERIACEAE

MYXOBACTERIALES

PSEUDOMONADACEAE

METHANOMONADACEAE

STREPTOMYCETACEAE

ACTINOMYCETACEAE

LACTOBACILLACEAE

またはMICROCOCCACEAE

ATHIORHODACEAE

ATHIORHODACEAE

LACTOBACILLACEAE

またはMICROCOCCACEAE

NEISSERIAEAE

PSEUDOMONADACEAE

またはSPIRILLACEAE

(1976)

ACHOLEPLASMATAEAE

BEGGIATOACEAE

CHLAMYDIALES

CHROMATAEAE

CORYNEFORM GROUP

CYTOPHAGALES

HALOBACTERIACEAE

METHYLMONADACEAE

MICROMONOSPORACEAE

NOCARDIAEAE

PEPTOCOCCACEAE

RHODOSPIRILLACEAE

RHODOSPIRILLALES

STREPTOCOCCACEAE

VEILLONELLACEAE

VIBRIONACEAE

これらディスクリプターの語尾の-ALESは, 分類上の目(order)を, -ACEAEは科(family)を意味している。このような分類上の上下関係は, 当然MeSH treeの階層構造に反映されている。

1) * = ☆Minor descriptor; Index Medicus用MeSHでは, see under 参照語として用いられる。

※ = ☆Entry terms: Index Medicus用MeSHでは, see参照語として用いられる。

MYCOPLASMAとACHOLEPLASMAのMeSH註記を見れば理解出来るように, 旧ディスクリプターから新ディスクリプターへの註記は, 新ディスクリプターから旧ディスクリプターへの註記がされているにもかかわらずなされていない。

旧代替ディスクリプターから新ディスクリプターへの同義参照(see参照)のされていないこのタイプのディスクリプターを利用する際には注意が必要である。しかし, 厳密にこの註記の意味を考えた場合は, MeSHの註が行なっているように新ディスクリプターにのみ過

去にその代替として用いていたディスクリプターを記しておく方が正しい註記の方法と思われる。なぜならば、新しい研究成果に基づいてなされた新命名の内容が、過去のそれと全く同一であることはあり得ないからである。

(1975)	(1976)	
MYCOPLASMA	ACHOLEPLASMA	以下のディスクリプターは分類上の属 (genus) に相当する。
※MYCOPLASMA LAIDLAWII	ACHOLEPLASMA LAIDLAWII	
※MIMAE	ACINETOBACTER	しかしMIMAE INECTIONSは、なおMeSHに残されている。
※ACHROMOBACTER	AICALIGENES	
	AZOMONAS	
※AZOTOBACTER AGILIS	*AZOMONAS AGILIS	
	BACTEROIDES FRAGILIS	
	*BACTEROIDES CORRODENS	
	*BACTEROIDES MELANINOGENICUS	
VIBRIO	CAMPYLOBACTER	
※VIBRIO FETUS	*CAMPYLOBACTER FETUS	反芻家畜(牛, 羊, 山羊等)に不受胎と流産を起こす病原菌。ヒトには病原性はないとされている。MIYAGAWANELLA INFECTIONSはなお残されている。
※MIYAGAWANELLA	CHLAMYDIA	
※ORNITHOSIS VIRUS 1975年度 では, see under MIYAGAWANELLA とされていた。	CHLAMYDIA PSITTACI	ORNITHOSIS VIRUSとTRACHOMA VIRUSはウィルスではなく、細菌のカテゴリに入れられているのに注意していただきたい。
※TRACHOMA VIRUS	CHLAMYDIA TRACHOMATIS	
※BUTYRIBACTERIUM	EUBACTERIUM	
PASTEURELLA	FRANCISELIA	
※PASTEURELLA TULARENSIS	FRANCISELLA TULARENSIS	
※SPHAEROPHORUS	FUSOBACTERIUM	
NECROPHORUSA	NECROPHORUS	
※LEPTOSPIRA	LEPTOSPIRA INTERROGANS	
ICTEROHAEMORRHAGICUS	LISTERIA	
MICROCOCCUS	PARACOCCUS	
※MICROCOCCUS DENITRIFICANS	PARACOCCUS DENITRIFICANS	
※CORYNEBACTERIUM ACNES	PROPRIONIBACTERIUM ACNES	
およびCORYNEBACTERIUM PARVUM		
※SALMONELLA PARATYPHI C	*SALMONELLA HIRSCHFELDII	
※SALMONELLA PARATYPHI	*SALMONELLA PARATYPHI A	
※SALMONELLA PARATYPHI B	*SALMONELLA SCHOTTMUELLERI	
※SALMONELLA TYPHOSA	SALMONELLA TYPHI	
	SPIROPLASMA	
※MICROCOCCUS PYOGENES	STAPHYLOCOCCUS AUREUS	
1975年度ではsee under STAPHYLOCOCCUSとされていた。		

(1975)

※DIPLOCOCCUS PNEUMONIAE

※PNEUMOCOCCUS

see DIPLOCOCCUS PNEUMONIAEと
参照がつけられていた。

※T-MYCOPLASMA

※VIBRIO COMMA

※PASTEURILLA PESTIS

(1976)

*STREPTOCOCCUS MUTANS

STREPTOCOCCUS PNEUMONIAE しかしS. pneumoniaeによる
PNEUMOCOCCAL INFECTIONSはディ
スクリプターとして残されている。

STREPTOCOCCUS SANGUIS

THERMOPLASMA

UREAPLASMA

VIBRIO CHOLERAЕ コレラの病原菌。

VIBRIO PARAHAEMOLYTICUS 病原性好塩菌として日本で発見(1951),
腸炎ビブリオと命名(1963)された食中毒
原因菌の一つ。

YERSINIA PESTIS

(1976)

B 6 カテゴリー (植物)

PLANTS, TOXIC

1975年度は, NON MESH termであった。

C カテゴリー (疾病)

以下の7ディスクリプターはNON MESH termであった。

CORNEAL DISEASES

SKIN DISEASES, BULLOUS

LACRIMAL APPARATUS

SWEAT GLAND DISEASES

DISEASES

OPTIC NERVE DISEASES

VULVAR DISEASES

UVEAL DISEASES

C 4 カテゴリー (新生物)

HEAD AND NECK NEOPLASMS

従来, 索引作成者はNECK NEOPLASMSを始めとする多くの関連ディスクリプ
ターで苦勞してHEAD AND NECK NEOPLASMSを索引していた。SOFT TIS-
SUE NEOPLASMSについても同様であった。

SOFT TISSUE NEOPLASMS

C 18 カテゴリー (栄養疾患, 代謝疾患)

ACID-BASE IMBALANCE

NON MESH termであったもの。

GANGLIOSIDOSIS

WATER-ELECTROLYTE IMBALANCE

NON MESH termであったもの。

C 22 カテゴリー (動物疾患)

ENTERITIS, TRANSMISSIBLE, OF TURKEYS

*HIP DYSPLASIA, CANINE

LAMENESS, ANIMAL

PNEUMONIA, ATYPICAL INTERSTITIAL, OF CATTLE

PULMONARY ADENOMATOSIS,
BOVINE (1975) とされていたもの。

PNEUMONIA, PROGRESSIVE INTERSTITIAL, OF SHEEP

PULMONARY ADENOMATOSIS,
OVINEは1976年MeSHにも残されている。

C 23 カテゴリー (症状, 病理学)

CONSTRICTION, PATHOLOGIC

DILATATION, PATHOLOGIC

E カテゴリー (分析法, 診断法, 治療法, 医療機器) に実験, 治療技法としてのディ
スクリプター, CONSTRICTIONおよびDILATATIONが存在する。C 23カテ
グリーのこれら二つのディスクリプターは1 M指定にはされない。

その他の疾病に関する新ディスクリプター

*ENCEPHALOMYELITIS, VENEZUELAN EQUINE

蚊によって媒介される人畜(鳥類, 馬, ヒト)共通感染症。アルボウイルスによる脳脊髄炎。ヒトの感染においてはインフルエンザ類似の症状を示す。

*FETAL RESORPTION

*HERPES GESTATIONIS

機械検索照合事項, FEMALEとPREGNANCYが同時に索引作成に際して用いられる。

HISTIOCYTOSIS X

HYPOHIDROSIS

PARAPROTEINEMIAS

WOUNDS, NONPENETRATING

WOUNDS, PENETRATING

WOUNDS, STAB

Dカテゴリー (化学物質, 薬物)

GASES, RARE

本年(1976)は205の新ディスクリプターがMeSHに追加されている。ここにあげられている5ディスクリプターはNON MESH termであったもの。

METALS, ACTINIDE

METALS, ALKALI

METALS, ALKALINE EARTH

METALS, RARE EARTH

ヌクレオチド, 核蛋白質

*DEOXYRIBONUCLEOPROTEINS

*RIBONUCLEOPROTEINS

*OLIGODEOXYRIBONUCLEOTIDES

*OLIGORIBONUCLEOTIDES

POLYDEOXYRIBONUCLEOTIDES

POLYRIBONUCLEOTIDES

POLY A アデニンリボヌクレオチドに属する。

*POLY C シトシンリボヌクレオチドに属する。

*POLY G グアニンリボヌクレオチドに属する。

*POLY I イノシンリボヌクレオチドに属する。

*POLY T チミンヌクレオチドに属する。

血液凝固因子

FIBRIN FIBRINOGEN DEGRADATION PRODUCTS

*FIBRINOPEPTIDES A

*FIBRINOPEPTIDES B

PLASMINOGEN ACTIVATORS

*PLATELET FACTOR 4

*PREKALLIKREIN

*VON WILLEBRAND FACTOR

免疫グロブリン

ALPHA MACROGLOBULINS

*IGA, SECRETORY

*IMMUNOGLOBULINS, ALPHA CHAIN

*IMMUNOGLOBULINS, DELTA CHAIN

*IMMUNOGLOBULINS, EPSILON CHAIN

*IMMUNOGLOBULINS, GAMMA CHAIN

IMMUNOGLOBULINS, HEAVY CHAIN**IMMUNOGLOBULINS, LIGHT CHAIN*****IMMUNOGLOBULINS, MU CHAIN****PARAPROTEINS*****PYROGLOBULINS*****SECRETORY COMPONENT**

蛋白質

*ACTININ***COLIPASES**

酵素ではない。豚膵臓から抽出され、94-95, 84-85アミノ酸残留物から構成されている。その薬理効果は、十二指腸内のトリグリセリド加水分解への胆汁酸塩の影響を阻害するとされている。

*COLONY STIMULATING FACTOR**RETINOL BINDING PROTEINS**

色素

*BACTERIORHODOPSIN

網膜色素とは直接関係なし。*Halobacterium halobium* の紫色の膜中に存在するロッドプシン様蛋白質。ロッドプシン同様の光に対する反応を示す。

*BILIVERDINE

両生類、鳥類に存在する色素。

*COPROPORPHYRINOGENS***UROPORPHYRINOGENS**

生理作用グループとしての化学物質名

ANTI-ARRHYTHMIA AGENTS

1975年度はNON MESH termであった。MYOCARDIAL DEPRESSANTS からsee 参照が付けられていた。

*CONTRACEPTIVES, ORAL, COMBINED***CONTRACEPTIVES, ORAL, SEQUENTIAL****HYPOGLYCEMIC AGENTS**

1975年度はNON MESH term。

IONOPHORES

NON MESH termからディスクリプターとされたもの。

AMPHETAMINES

この他にAMPHETAMINEあり。

TETRACYCLINES

この他にTETRACYCLINEあり。

その他の化学物質

*CHOLESTEROL ESTERS***CHONDROITIN SULFATES**

CHONDROITIN SULFATE AとCHONDROITIN SULFATE Cからこのディスクリプターにsee 参照が付けられている。しかし、CHONDROITIN SULFATE Bからは、DERMATIN SULFATEにsee参照が付けられていることに注意されたい。

E カテゴリー (分析法, 診断法, 治療法, 医療機器)**CHROMATOGRAPHY, GEL****CHROMATOGRAPHY, HIGH SPEED LIQUID****CHROMATOGRAPHY, LIQUID*****CHROMATOGRAPHY, MASS**

MASS FRAGMENTOGRAPHYにsee参照が付けられている。

*COUNTERIMMUNOELECTROPHORESIS***IMMUNOELECTROPHORESIS, TWO-DIMENSIONAL****EARLY AMBULATION**

**INJECTIONS, INTRAVENTRICULAR
EMBOLIZATION, THERAPEUTIC
HEMOSTASIS, SURGICAL**

脳室内注入(注射)に対しての語。心臓の心室に対しての語ではない。

外科手術中または手術後の止血に対して用いる。G カテゴリーのHEMOSTASISは生理現象としての止血現象に用いるディスクリプターである。

HEMOSTATIC TECHNIQS

**PHYSICAL CONDITIONING, ANIMAL
WHEELCHAIRS**

同時に機械検索照合事項ANIMALが索引作成に際して用いられる。

1975年まではWHEEL CHAIRSとして用いられて来た。

F カテゴリー (精神医学, 心理学)

*AMNESIA, RETROGRADE

*FIRESETTING BEHAVIOR

*GENDER IDENTITY

生理的な性の区別の意で用いられるSEX CHARACTERISTICSと区別すべき語。

*HOMOSEXUALITY, FEMALE

同時にHUMANとFEMALEの照合事項が索引作成に際して用いられる。

JOB SATISFACTION

MARITAL THERAPY

これまでMARRIAGE THERAPYとして用いられてきた語。

PERSONALITY TESTS

PROFESSIONAL-FAMILY RELATIONS

RELAXATION TECHNIQS

I カテゴリーのRELAXATIONおよびMUSCLES/physiology (生理的な筋肉の弛緩に対してのディスクリプターとして)と混同してはならない。

G カテゴリー (生物科学)

NEUROANATOMY

専門分野としてのNEUROANATOMY およびその従事者を表わすディスクリプターとして用いられるべきもの。NON MESH termであった。

PEST CONTROL

生理学

ERYTHROCYTE AGGREGATION

(E) カテゴリーにも入れられている。

EUTROPHICATION

EYE COLOR

HAIR COLOR

PLOIDIES

NON MESH termであった。

PREGNANCY TRIMESTER, FIRST

PREGNANCY TRIMESTER, SECOND

PREGNANCY TRIMESTER, THIRD

REFLEX, OCULOCARDIAC

TASTE THRESHOLD

(F) カテゴリーにも入れられている。

ABO BLOOD-GROUP SYSTEM

以下の血液型に関するディスクリプター以外に、MeSH中にはLEWIS BLOOD-GROUP SYSTEMがある。ABO FACTORS (1963-1975)がABO BLOOD-GROUP SYSTEMと変更されたのと同様に、RH FACTORS (1960-1975)がRH-HR BLOODGROUP SYSTEMと改められている。

*DUFFY BLOOD-GROUP SYSTEM

*I BLOOD-GROUP SYSTEM

*KELL BLOOD-GROUP SYSTEM

*KIDD BLOOD-GROUP SYSTEM

LUTHERAN BLOOD-GROUP SYSTEM

MNSS BLOOD-GROUP SYSTEM

*P BLOOD-GROUP SYSTEM

RH-HR BLOOD-GROUP SYSTEM

H カテゴリー (物理科学)**ESTERIFICATION**

IM 指定ディスクリプターとしては用いられない。

RADIATION, IONIZING

放射線に関するこれらディスクリプターは、NON MESH term であった。

RADIATION, NON-IONIZING**I カテゴリー (人類学, 教育, 社会学, 社会現象)****POPULATION DYNAMICS**

NON MESH term であった。

EUROPEAN ECONOMIC COMMUNITY

スポーツ

FOOTBALL

柔道, 空手には WRESTLING を用いず, SPORTS を用いるよう特に註が付けられている。

*GOLF***SOCCER*****HOCKEY*****TENNIS*****JOGGING****TRACK AND FIELD****RUNNING*****WEIGHT LIFTING*****SKATING*****WRESTLING****J カテゴリー (科学技術, 産業, 農業)****ANIMAL HUSBANDRY****FOOD TECHNOLOGY**

以下のディスクリプターはいずれも NON MESH term であったもの。

FOOD SERVICES**HOUSEHOLD ARTICLES**

HOUSE HOLD PRODUCTS と混同せぬこと。

TRANSPORTATION**K カテゴリー (人文科学)****ISLAM**

MOHAMMEDANISM (1960-1975) としてこれまで用いられてきた。

L カテゴリー (情報科学, コミュニケーション)**INFORMATION CENTERS**

これらはいずれも NON MESH term であった。

LIBRARY SERVICES**LIBRARY TECHNICAL SERVICES****TELECOMMUNICATIONS****M カテゴリー (人間集団)****BLACKS**

NEGROES (1960-1975) として用いられてきた。人類学的な観点を持つ NEGROID RACE (1968-) と混同してはならない。

NURSE PRACTITIONERS**N カテゴリー (健康管理)*****EMERGENCY SERVICES, PSYCHIATRIC*****HOSPITAL MATERIALS MANAGEMENT*****TRIAGE*****PATIENT ADVOCACY****UNITED STATES DEPARTMENT OF HEALTH, EDUCATION AND WELFARE****COST BENEFIT ANALYSIS**